

静岡県立森林公園森の家施設等指定管理者選定委員会会議録
＜静岡県県民の森施設＞

日時：令和3年10月21日（木）

場所：県庁別館20階第1会議室B

【注意】

- ・ 各発言者の要旨を記載している。
- ・ 公開に当たり、委員名は特定しない。委員長については、委員長としての発言のみ特定している。

◎井川森林組合

○委員長 ただいまから井川森林組合様の審査を始めます。

○申請者 本日発表させていただく井川森林組合になります。

○委員長 では、20分間で今回の指定管理者申請に係るプレゼンテーションを始めてください。残り時間が2分になりましたら、事務局がベルを1回鳴らして合図をします。時間になりましたらベルを2回鳴らしますので、プレゼンテーションを終了してください。よろしくお願いいたします。

○申請者 では、改めまして、井川森林組合です。よろしくお願いいたします。

私ども井川森林組合は、今現在、県民の森の管理をさせていただいております。多くのリピーターに支えられながら、キャンプ、バーベキュー、散策などのレクリエーションの場を提供しています。本日は4つのキーワードに沿って進めさせていただきます。

1つ目は、整備についてです。園内の自然資源を生かした整備を進め、県民の森の目玉となる空間の創出を図ります。具体的には、現在のパズルコースを再整備していきます。

2つ目は、広報についてです。広報において中核となるインターネット媒体を充実させます。また、パンフレットについても更新を行い、各所に配架を行っていきます。

3つ目は、サービスについてです。インターネット予約のシステムを構築、開始していきます。

最後4つ目は、地域についてです。井川地域と県民の森の関わりについて、現状と今後について触れさせていただきます。

では、1つずつ進めさせていただきます。まずは整備です。県民の森の魅力は、何と

も大自然です。来園される方もこの自然を目的に来られている方が多いです。現在でも園内を散策すれば、十分に味わえるわけですが、より身近に感じてもらえる場所を創出することで、県民の森の売りとしていきます。

県民の森にはパズルコースというものが設置されています。さまざまな種類の樹木があり、それを巡るコースが設定されています。現在、植物の遷移が進み、大きな木が増え、下層にある樹木や草が被圧されている状態が見受けられます。今後5か年でここを再整備し、明るい空間に戻し、再度利用価値の高い場所にしていきます。

現在のパズルコースは、1から40番まで番号がついており、木の種類が40種類あることを示しています。ミズナラやダケカンバ、ハウノキ、リョウブなど、この地域を代表する植物があります。

ところが、実際に生育しているのは22本ほどで、全体を見渡しますと、広葉樹が多いものの、どことなく薄暗く、草本が少ないため、緑が少ないような印象を受けます。

主な木に樹木プレートが付いていますが、プレートの前にあるべき木がなくなった状態になっています。以前は普通に見られたオニグルミやニシキウツギ、コアジサイなどは枯れてなくなってしまうようです。私どもはこの場所を再整備し、パズルコースを復活させるとともに、この場所が県民の森の中心となるような空間を目指します。

ここを調査している間にちょこちょこ動き回るリスにも出会いました。非常にかわいらしく、この空間の高い魅力を感じました。具体的には、新しい樹種の発掘、樹木の整頓、樹木プレートの付け直しや付け加え、現状に合った動線の計画を考えています。

さらに、簡易ベンチの設置や、ハンモック等の貸し出しを行います。この空間を復活させることは、利用者に安心な散策コースを提供するというにつながりますし、また自然観察のガイドツアーをスタッフが行えるようにもなります。自分たちのフィールドとして位置づけし、パズルコースで行えるプログラムを作成し、県民の森の売りをつくっていきたいと考えています。

次に広報についてです。平日も含めて、利用者数を増やすことが課題となっておりますので、今後も新規利用者を獲得すべく、広報に力を入れていきます。新規利用者の獲得ですが、主力となる媒体はインターネットであると考えておりますので、現在使用しているホームページ、ツイッターなどの改良、充実を図ります。SNSでは利用者の力も借りながら、県民の森をより多くの人で盛り上げていくような仕組みを考えていきます。

さらに、パンフレットを更新した上で、アウトドアショップ等に配架の依頼をすることで、潜在需要の掘り起こしを図っていきます。近年のキャンプブームでキャンプ場も増えています。その中で残っていくためには、ここの魅力をなお一層押し出していくことが必要となっていま

す。

まずインターネット媒体の充実です。ホームページへのアクセスを増やすため、現在のホームページのSEO対策を行います。SEOは検索エンジンの検索結果で上位に表示させるための手法で、例えば代表的な検索エンジンで、「キャンプ場 静岡」と検索した際に、SEOがうまく機能すれば、検索結果として静岡県民の森が上位に表示されるようになり、人の目につきやすい状態となります。

検索エンジンの1ページ目、さらには1ページ目の上に行けば行くほど、インターネットアクセスが増えるといわれているので、県民の森ホームページを開く人も増えることとなります。このためにはホームページを最新に保つことが最低限必要であるため、管理人室にインターネット環境の整備を行います。

また、画面の星マークは、口コミの評価なども同時に表示されます。これはキャンプ場の選択に大きく影響していることが考えられるので、この評価の獲得についても考えていきます。大抵はホームページへのリンクが直接なされており、後ほど触れさせていただきますが、ホームページでのインターネット予約システムを確立した際には、そのまま予約につながっていく大切な部分になります。

SNS関連では、これまでどおり、ツイッターのリアルタイムの情報発信と、現在SNSの中心的存在になっているインスタグラムに力を入れていきます。ツイッターの強みは、リアルタイムで短いつぶやきができることです。これまで気温や天気の変化などを発信してまいりました。発信を続けたことでフォロワー数も徐々に大きくなりましたので、今後も更に続けてまいります。

また、インスタグラムでは、利用者や県民の森ファンで盛り上げていく仕組みをつくりたいと考えています。利用者、来園者が滞在中に撮った写真を自身のインスタグラムに投稿していただき、県民の森の宣伝に一役買ってもらいます。

具体的には、撮影した写真にタグを付けてもらいます。そして、例えば「#(ハッシュタグ) 県民の森フォト」で検索をかけた際に、利用者の投稿した園内の写真が見られるようになります。窓口や園内の掲示板でハッシュタグの認知と、積極的な投稿を呼びかけるとともに、定期的にインスタグラムフォトコンテストを行い、県民の森インスタグラムの周知を図ります。

ホームページにもインスタグラムゾーンをつくり、そこに映像が流れるようなシステムを構築します。利用者の撮影したインスタグラムの中で、この「#県民の森フォト」と付けてくれた方のみ、画像がアップされる仕組みとなります。そしてこのページを見た利用者が、県民の森で撮影したいという意欲を持ち、さらに輪が広がっていくのがねらいとなります。利用者がつくり上げるページをホームページに取り入れ、SNSの特徴を生かし、県民の森のファンを

増やしていきたいと思えます。

また、こちら側からも、投稿者、特にインフルエンサーと呼ばれる影響力の強い人をチェックし、県民の森のインスタグラムが盛り上がるような仕掛けを行っていきたくて考えています。

次に、パンフレットのリニューアルと配架についてです。現在利用しているパンフレットをリニューアルし、各所に配付します。県民の森をアピールし、潜在需要の掘り起こしを図るため、アウトドアショップ等に配架をしていきます。主として、好日山荘、SWEN（スウェン）、アルペンアウトドアーズ、スポーピアシラトリ等になります。

静岡県は中部を中心に、県内 30 か所以上に大型アウトドアショップが点在しておりますので、これらを有効に宣伝に活用していきたいと思えます。近年はキャンプブームであり、キャンプ場はしばらくにぎわいを見せると考えられます。キャンパーがアウトドアショップでギアを選ぶときに、そのギアを使用するキャンプ場も同じように選ばれるように、パンフレットの顔の部分には特に気を遣って作成していきます。

また、積極的に大学などにも依頼していきます。県内の大学生は 3 万 5,000 人ほどと言われております。大学は夏休みが長く、9 月末ぐらいまで休みがあり、7 月、8 月の県民の森の繁忙期とずれがありますので、その時期の利用を推進して、利用率改善に努めていきたくて考えています。大学生になると行動範囲も広がり、サークルなどで合宿の機会もありますので、それらを取り込むために期間限定とはなりますが、お得なプラン等も考えていきたくて思えます。

次に 3 つ目、サービスについてです。予約方法にインターネット予約を導入し、利用者にストレスの少ない方法を探ります。また、自主事業で販売品やレンタル品等、ニーズに沿ったものを提供いたします。

現在の予約の方法ですが、代表的なものは、インターネットで空きを確認し、その上で電話をかけ、予約するという流れです。その後、こちらから申込書等の郵便物を送り、当日窓口で宿泊受付をすることになっています。

この電話予約の利点は、丁寧に説明ができることにより、説明が行き届くため、リスクが回避できるということですが、利用者にとりましては、営業時間内しか予約できない、電話は少しハードルが高い、面倒ということがあります。一方、今後インターネット予約のシステムを導入することで、空室調べから予約まで、一貫してできることとなりますので、利用者もパソコンやスマホから負担なく県民の森の予約ができることとなります。

しかしながら、この場合、現在の予約方法で重点を置いている説明の点がウィークポイントになります。口頭で行う説明のかわりに、チェックボックスにマークを入れて確認してもらうフォームを作成するなど、対応を考えていきます。インターネット予約を導入した際でも、利用者が安心して申し込めるようにいたします。

最後に、地域との関係です。県民の森は、市街地から1時間半ほど離れた山にありまして、井川地域との結びつきが非常に強いものとなっています。立地上、県民の森を地域と切り離して考えることはできません。利用者の中には、足を伸ばして井川集落まで行く方もいらっしゃいますし、逆に井川のほかのスポットを巡ってから県民の森に宿泊される方もいます。宿泊施設が多くはない地域ですので、県民の森は拠点の1つとなっています。

従業員に関して、私を含め、現在の従業員はすべて井川在住です。事業体も限られている地域にとっては、貴重な働き口となっています。森林組合としても地元の雇用促進を積極的に行っておりまして、今後もその方針に変わりはありません。ただ、近年は村の高齢化や人口流出が顕著で、労働力の確保に苦心しているという実情があります。今後は、地元雇用は確保した上で、新しい要素を取り入れることも考えていきたいと思っております。

この県民の森の周辺には、リバウエル井川スキー場、井川自然の家があります。これら施設との間で井川地区野外体験施設連絡協議会を定期的に行っており、積極的な情報交換を行っています。それぞれの施設に特徴があるので、それらを生かしながら相互利用なども計画し、県民の森の日帰り利用数も増やしていきたいと考えています。

井川集落方面に足を伸ばすと、井川湖を周遊する船に乗船できたり、カヌー体験ができる場所もあります。食事処や温泉もありますので、県民の森を拠点に井川を楽しんでもらうよう、宣伝をしてきたいと思っております。これまでも井川内の施設にお世話になっているところが多いのですが、今後も地域の施設や資源を最大限に活用していき、地元にも県民の森が重要な施設であるという認識を再度持っていただけるような関係性をつくってまいります。

また、少し離れておりますが、川根本町の接岨峡温泉や、奥大井湖上駅、トーマス列車などの利用者も集客圏内です。これら観光地は全国的にも有名な人気スポットですので、その方面からの利用も促進してまいります。県民の森のファンを増やし、井川のファンを増やし、地元の信頼を得た上で地域に還元していけるような県民の森であり続けたいと思っております。今後5年間、ますますの熱意を持って取り組んでいきます。

以上で、井川森林組合のプレゼンテーションを終わります。ありがとうございました。

○委員長 ありがとうございました。先に提出された申請書及びただ今のプレゼンテーションの内容などについて質問、意見のある方はお願いいたします。

○委員 資料の方で、何点か確認したい点があります。提案書の「繁忙期以外は使用時間の延長を行います。13時から翌10時を10時から翌12時とします。」というのは、これは何時間延長と捉えたらいいですか。

○申請者 県民の森は、ゴールデンウィークと夏休みといった、子供たちも一緒に家族で泊ま

りに来れる時期が繁忙期となっています。通常はチェックイン 13 時、チェックアウト翌日の 10 時ですが、繁忙期以外はチェックインを 10 時、チェックアウトを翌日の 12 時という「アーリー・チェックイン、レイト・チェックアウト」としています。

○委員 わかりました。収入積算の部分ですが、ロッジとログハウスの年間の使用数だと思えますが、過去 5 年間のピーク時がどのくらいだったのか。この数字と比較したいので教えてください。

○申請者 ここ数年、施設の改修があったり、コロナウィルスの関係で、ピーク時というのはなかなか決められなかったんですが、その中でもフルにゴールデンウィークだったり、夏休み、稼働する時がありまして、その割合でフル稼働して、さらに閑散期の土日が埋まれば目標が達せるような数値に設定されています。

○委員 収支計画の令和 8 年の数字が多分一番大きいと思うんですけど、そこが過去のピークぐらいと捉えたらよろしいですか。

○申請者 過去のピークプラス土日のフル稼働でこの数字になります。

○委員 わかりました。あと、収支計画の中の公租公課 200 万円ほど計上されているんですが、これはどういった費用でしょうか。

○申請者 主に消費税の金額になります。

○委員 わかりました。ありがとうございました。以上です。

○委員 主に 2 つほどお伺いしたいんですが、まずパズルコースが、かなり木が減ってしまって枯れてしまったということの御報告をいただいたんですが、これはやはりシカの影響でしょうか。これから再整備されるということですが、もちろんすぐに木が生えるわけではないので、原因とその再整備の計画が何年計画かを伺えればと思います。

○申請者 このパズルコースの再整備ですが、実際は、結構な困難があると思っております。5 年間のうち 1 年ごと計画を立ててやっていくわけですがけれども、今現状を少し調査したところでは、周辺に同じような植生があったり、コアジサイなどはもう本当になくなっているんですが、あるものは移植をすることも考えておりますし、あとは埋土種子も多少あると思っておりますので、日当たりを 1 回よくして、少し掘り起こしを図ろうと思います。シカの害はやはりひどくて、今残っている木でも剥かれている木がかなりあります。

○委員 本当にシカで苦労されているんだろうと思ひまして、でも基本的にすごくきれいに整備されているのを拝見しているので、継続されたらと思っています。

予約システムですけれども、これは今の時代、必須だと思うんですが、これはいつから導入の御予定でしょうか。あと、インスタグラムの活用があるということで、「# 県民の森フォト」という、そのハッシュタグが良いのかと思いました。またフォトコンをやったり、インフルエ

ンサーを活用したりするのは、少し費用もかかることと思うのですが、具体的な計画があれば教えてください。

○申請者 具体的にというのは、まだそこまでいっていません。ただ一番最初にネット環境を整備したいと思っております。これもつい最近ではあるんですが、ソフトバンクの電波が入るようになったものですから、そこからW i - F i が使えるということが判明したので、その中でもいい状態で電波が取れるものを使って、できれば来年度から取りかかって、来年度中にやりたいと思っております。

インスタグラムですが、「# 県民の森フォト」では、それは例として挙げたもので、もう少し安全面とか、例えばだれかが「# 県民の森」と簡単に付けてしまって、このホームページに公開されるというのを知らないまま上げてしまう場合もありますので、もう少し凝ったハッシュタグの名前にさせてもらって、それでそのハッシュタグを付けてくれた方は、そこでホームページに上がることを承知した、というような、そういうもう少し凝ったタグにはしようと思っています。以上です。

○委員 何点か確認と質問です。パズルコースの整備等、いろいろやられるということなんですけれども、イベントで自然キャンプをやったり、キノコの体験が人気ということがいろいろ書いてあって、魅力的なものだなと思いますが、広報とも連動すると思うんですが、子供、あるいは家族、学生さん、中高年の方など、今の主力がどうで、今後どういう形のメインターゲットにするか、全部かもしれないですけども、方針を絞ってやっていく形が、かなり効果が出やすいと思いますので、そういったメインターゲットのイメージというのが1つ。

あとは、私自身も山の仕事をしていることもあって、シカ関係と関わる部分が多いんですけども、シカのツアーであるとか、シカの素材を使った活動をいろいろとやっている中で、かなり興味、関心が高いと思っています。森の課題の1つだとは思いますが、その辺を魅力に変えていくようなことができると思うので、そういった点をどういうふうに捉えているかということと、井川はすごく魅力が多い町だと、課題も多いかもしれないですけども、魅力が多いので、井川特有の売りというのも何かできそうだと思いますので、その点の考えをいただければと思います。

○申請者 まず最初のメインターゲットに関してですが、これまでもやはりファミリー層がメインでしたので、今後もメインターゲットはファミリー層だと思っております。ただ、イベントを使って、メインの層以外にも来てもらいたいというのも実はありまして、少し前までは新緑観察会だったり、紅葉観察会だったり、そういったものは御年配の方に人気があって、そのお孫さんにも広がっていきます。大学生にも県民の森を認知してもらって、それで今後、自分の子供だとか、そういったものにつながっていけばいいという考えになります。基本はファミ

リー層になります。

2番目、シカですが、害はやはりものすごいです。ただ、街から来た方は、その害よりも、多分シカを見たかわいさなどにも魅力はあるとは思いますが、林業をやっている者にとってはすごく敵なんです。県民の森はふれあいの場でもあるので、そういう実情を知ってもらいたいかなということで、園内にシカ害があったら、ツアーをやってみたりとか、猟師さんも、少ないですがいますので、そういう方を呼んで、シカを楽しむプログラムを考えていきたいと思えます。

井川の魅力とつなげたいというのは、県民の森でずっと考えておきまして、集落の方に足を伸ばしてもらいたいということもありますし、自分たちのイベントで集落になるべく人を引き連れて行って、井川自体に活気が戻る、そのときにファンをつくってもらいたいような、そういったプログラムを考えていきたいと思えます。最近、井川の在来の食べ物も非常に人気がありますので、それとも手を組んでやっていきたいと思えます。以上です。

○委員 プレゼンテーションを聞いて、インターネット媒体を充実させていくという方向性はすごくよくわかりまして、着実に努力されているなと思えました。

質問は3つありまして、最初の質問は、今、委員から出た話とも関係すると思うんですが、メインターゲットは何かという話で、ファミリー層という答えがありました。具体的に提案書2のところにパンフレットの更新というのがあるんですけど、パンフレットが本当に地味だと前から思っていて、更新した方がいいと思っています。今度更新する場合にどういった基本的コンセプトで更新するのか、それをお聞きしたいというのが1つ目の質問です。さっきパズルコースの説明があったので、そういうところがあるのかなと。それからファミリー層に対して訴えかけるコピーを用意しているのか、それが1つ目の質問。

2つ目は、今の話とも関係するんですが、イベントや自主事業の計画の実施体制ということで、目玉になる事業、例えば三ヶ日青年の家では1年に1回必ず青年の家祭りがあって、地域の人たちも動員して、200人、300人という人たちが集まってやるというような、年間行事の中でも何か節目になる、この施設の特徴になるようなものが欲しい。メインターゲットの話とも関係してくると思うんですが、イベントや自主事業の強調点を知りたいということが2つ目です。

それから3つ目は、地域との連携のところで、ボランティアとの連携の具体的な見通しを聞きたいです。ボランティアのことは余り書いてないようです。これまでの実績、これまでそれほどボランティアの組織化がうまくいかなかったとすれば、これからどうやってボランティアを動員していくのかとか、そういう見通し計画があれば教えて下さい、以上3点です。

○申請者 まずパンフレットですが、ここ何年も地味だなというのは聞いておきまして、更新

を考えております。インパクトがまずない、キャッチフレーズも「発見したい」という薄いキャッチフレーズになっておりますので、今度広報でアウトドアショップや大学に配架を重点的にやりたいと思っていますので、そのときに一番表の部分、今ログハウスが写っている部分ですが、そこをまず人目につくようにしたいと思っていますが、具体的などころまではまだ詰めておりません。

イベントの目玉、これもお祭りみたいなものが今まで県民の森ではなかったものですから、今とても参考になりました。そういったものを企画してもおもしろいと思いました。なかなか村の人だけですと、正直限られていて、年配の方が多くて、どれほど来てくれるか不安なんです。井川が好きでファンの方もおりますので、そういった方を巻き込んでできるようなものをおもしろいと思っております。ありがとうございます。

ボランティアについてですが、これはいつも苦心しているところで、これも井川に住んでいる人だと、車に乗れない方が大分増えてしまって、何か違った形でお手伝いをやるというのはできるかもしれないですが、県民の森まで来てもらうというのはできないので、もしボランティアで、例えばパズルコースのお手伝い、草取りだとか、かき起こしだとか、危険のないものやってもらうようなときには、街の方から募ってもいいと思います。これも今後考えさせていただきたいと思っております。ありがとうございます。

○委員 多くの県民の方に利用していただきたいという県としての考えがあります。それで、今職員の皆さん、地元の方がやっておられて、地域の資源を活用するという御説明もあったものですから、そういう中でこれから利用増を図っていく上で、インターネットに加えて、自分たちがこれまで培ったノウハウとか、そういったものを生かしながらイベントをやっていると思うんですけども、外部の人、あるいは企業、それから県外の利用者を増やす、そういったときに何か新しい光るもの、今までやってきたノウハウだけでなく、新しいものを取り入れるに当たって、何かお考えがあるかどうか、あれば教えていただきたい。

○申請者 自分自身も8年ぐらい県民の森に関わらせてもらっていて、自分たちでやるだけでは限界があるというのは、身にしみて感じております。講師などは外部の方をお願いすることもあるんですが、ほかにも企業に手伝ってもらえれば、大きな力になると思っておりますので、これから開拓していかなければと思っています。できるだけ県民の森の価値を高めたかったので、いろんな広報効果もあるような企業とコラボできればいいと思っておりますので考えさせてください。

○委員 私の方から1点、提案書の中で、令和8年に年間来園者数2万5,500人、年間利用料金583万ということで設定をされております。この数字については、今の実態から含めて、将来的にどうなんだろうと考えたときに、今はレポートをしてくださっている常連さん的な方もおられ、この目標を掲げて、目標達成に向けては、新たな需要開拓、お客様の獲得をしていか

なければならないと思うんですが、新規の拡大は、令和8年にどんと増えるのではなく、4年から徐々にという形になると思います。

そのときに新しく取り込む新規のお客様、利用者をどの辺にとらえていくか、このままコロナが治まってくれば、もちろん人の移動は増えてくると思いますし、特に環境に対する意識は、コロナ禍を経て相当変わったと思います。そういった意味では環境が1つ大きなキーワードになると思っています。そうした中で井川の自然というのは非常に静岡を代表する自然になると思います。ですので、井川の環境や資源を利用拡大という形につなげていくというのが、多分肝になると思うんですね。

そういったときに、これからコト消費的な体験などが一番メインになってくると思いますので、新しい体験メニューは、どんどん外部の知恵も取り込みながらやっていくというのが非常に重要になると思います。中の方も外の方も含めて、外部との交流、連携を今思っていることがあれば、教えていただければと思います。

○申請者 これまで外の講師に頼む回数もそれほどはなく、研修などでほかのところの知恵をいただいたり、そういうのも少ない部分もありましたので、どんどん積極的に取り入れていきたいと思っています。

それと、ここ県民の森を会場として、ブッシュクラフトやキャンプの講習会などを行えば、例えば県民の森に来て何をしたらいいかわからないという人がいますので、そういった体験会、講習会みたいなものを作って、会場としてそこから広げるような、そういう仕組みも考えたいと思っています。

○委員 それでは最後に私から、インターネット予約で、簡素化する流れの中に、郵送が入っているというのにびっくりしました。これからデジタル社会の中で、せっかくインターネットで予約したのに、またそこで郵送というのは非常に疑問に思いました。

それと、地域の連携ということで、例えば川根本町も含んだということですけど、井川駅もアプト式のすごく魅力のあるところで、電車に乗ってきた人たちが県民の森へ来るまでのアクセスはどうするんだという疑問が1つあります。その2つをお答えいただければと思います。

○申請者 まず予約の中の郵送という部分ですが、郵送の部分も省けるように、ゆくゆくはそうしたいと思っておりますが、お金の支払い方、今は振込用紙を同封して、郵便局で支払ってもらって、それで予約が完了するシステムになっておりまして、そういったものもこの時代だとネットバンキングなどが普通になってきていますので、徐々に改良して、郵送を省いて、ただ説明だけはこちらから特殊な環境にキャンプに来ていただく、街から来て、寒くてしょうがないとか、そういった人がいますので、そういう県民の森の危険性、環境はしっかりと伝えていけるようなシステムができ上がったら、郵送の部分を省いていけるようにしたいと思っています。

ます。

地域との連携のところ、例えば井川駅ですね、ここもずっと課題になっていまして、何年か前に井川駅からの送迎を試みたんですけども、アプト式を利用した人で県民の森を利用してくれた人というのは1組だけで、電車を使って井川駅に降りた人が県民の森の利用をするとは、なかなか考えられなくて、やはり車で川根本町の奥大井湖上駅や、井川駅などに来てくれた人が使う、そういう集客がメインになってしまいます。

○委員 わかりました。郵送というのは、これからデジタル社会になっていく中で、そこはぜひ改善してもらいたいです。また、井川駅からの送迎は1組しかなかったということなんですが、これから高齢化社会の中で、どうしても井川の道というのは、高齢者にとっては非常に負担になり、公共機関を使ったお客、その獲得にぜひ努力していただきたいと思います。

それと、先ほどボランティアがなかなか見つからないということだったんですが、コロナ禍の中で企業へのアタックができなかったということ、この前お聞きしたんですが、逆にこれでコロナが収まれば、企業というのは地域貢献というのに非常に積極的に今関わってまいりますので、ぜひ企業の方へ積極的に働きかけて、地域貢献のボランティアをやってもらう、またコロナ禍でリモートワークが非常に進んでいますので、井川はネット環境がこれで進んでくるわけですから、あそこでリモートワークできるとなれば、企業がやりたいんじゃないかと思います。そこで1週間など滞在型になりますので、ぜひお考えいただければと思います。

最後に、私も井川は大好きなんですが、そういうファンをたくさんつくることによって、先ほど言ったボランティアもそうですが、これから移住ということも念頭に置いて、井川に住みたいという人たちを、県民の森でそういう人たちをぜひつくっていただきたい。井川に人が住む、非常にすばらしいことになると思いますので、ぜひここで努力していただければと思います。

○委員長 これで皆さん意見出尽くしましたので、これで審査を終了いたします。井川森林組合の皆様は退出していただいて、審査結果については後日事務局から通知しますので、ご苦勞様でした。

(井川森林組合退室)

○事務局 それでは、県民の森施設の集計結果についてご報告をいたします。ただいま配付した資料をご覧ください。当申請団体につきまして、各委員の皆様合計点を算出し、平均点を算出しましたところ、78.5点となりました。またそれ以外の評価の部分については別紙ということで、まとめてございます。ご覧いただきたいと思います。

○委員長 ただいま事務局の方から、78.5点と点数がでました。これについてご記入いただいた講評についてお1人ずつ、コメントをいただきたいと思いますので、総合的な評価ということでよろしくをお願いします。

○委員 井川地区の他の観光施設と、うまく連携して、井川地区を面としてとらえて、観光及び宿泊の拠点となる施設となれるように期待しております。

それと、やはりインターネット予約は必須だと思います。期間評価の時に、ここについては予約が不便だということで、その時ご指摘させていただいたことに対して、答えをいただいて非常に前向きにやっていたところを評価しました。

宿泊者数の目標を達成するためには今のリピーターというか、固定客と新規客の見込みやターゲット設定、それに基づく仕掛けをしていくことが重要、という点を指摘させていただきました以上です。

○委員 ツイッターやインスタなど、とても工夫されていることが見受けられたんですけども、井川の中でいろいろと努力されていると思うので、外部の意見をもっと入れることができれば、もっと変わる可能性があると思いました。これから、コロナ明けでもありますので、そこに期待したいと思いました。

人口減というのは本当に井川の課題だと思いますので、何とか若い方たちを呼び込み、ボランティアも井川の方ではなくて、如何に街からお連れするかというところで、そこも外部の力を借りれば絶対になし得ると思いますので、その部分はこれから期待したいと思っています。

○委員 地元の森林組合という施設整備や運営面で強みがあるということで、評価をしたいと思いますが、インターネットのことも含めて、まだまだ可能性がある場所だと思います。若手の職員の育成とか、移住に繋がるような仕組みだとか、いろいろなことが課題としてはあると思います。県の方かもしれませんが、フォローアップのような形で、何か随時行動できるような形があれば、よりいい運営に繋がっていくのかなと思いました。

○委員 インターネット媒体の利用についての努力は評価したい、また、地域との連携はさらに改善努力を続けてもらいたいです。これは他の方も書いてるようにやっぱり地域の魅力がありますので、それをどんなふうに県内、県外へお知らせしていくか、先ほども話がありましたが、ボランティアの連携は、井川の住民との連携も大事ですが、静岡市の街中から学生が参加したくなるような仕掛けを作っていく必要があると思います。

○委員 県といたしましては、これまでの施設管理は、もう十分評価させていただいています。今後、ウィズコロナ、アフターコロナという新しい時代が変わってくる中で、どう利用者数を増やしていくかというのは、指定管理者もそうですけども、県としてもサポートして

いく必要があると感じております。

○委員 とにかくコロナ禍の後、アフターコロナは、環境が社会的にクローズアップされてくると思います。環境を学びたい、あるいは体験したい、いろんなニーズがあると思いますので、そういったニーズをうまく地域資源と結びつけて、井川につなげていただければと思います。

環境教育の点で、非常に期待しております。ぜひ地域の特にお年寄りの方も非常に生きる知恵と言いますか、自然に対する知恵を持っている方もいらっしゃると思いますので、井川で総動員して、井川の魅力を発信しながら、社会的ニーズに応じていただければ、非常に頼もしいと思いますし、期待もしております。

○委員 私からは、長年見て参りまして、最初に発表を見てから、ものすごくレベルが上がりました。若い方が担当になりネット関係が急に上がったのでちょっとびっくりをしております。しかしその中でも行き詰まるところが少しあって、皆さんからもありましたが、井川の中でおさめようというのがまだまだ見えるので、もっと外部の力を借りるというのが必要だと思います。もう少し若い人たちがもっとフォローしないと、多分行き詰まってしまうようなところがあると思うので、県の方でもフォローして変えていただきたいと思います。

それと、家族をターゲットにしているということですが、今のお年寄りはすごく元気です。でも運転というのはなかなかストレスになるので、そうした元気なお年寄りがそこに行けるようなこと、そこへ呼び込む工夫をしていただきたい。フィールドを充実させるというのは本当にお年寄りなんか大好きなんじゃないかなと思いますので、ぜひこれからバックアップして充実させていただければ、目標値はもっと高くてもいいんじゃないかなと思いますので、よろしくをお願いします。

○委員長 それでは審査結果により、井川森林組合を指定管理者候補者候補者として適正であると判断して、候補者として決定することよろしいでしょうか。

(異議なし)

井川森林組合様が、県民の森施設の指定管理者候補者として選定されました。ありがとうございました。それでは進行を事務局にお返しします。